

景況実感調査(2018年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 実働18日となり、対前月比1日減の中ほぼ前月並みの売上となった。川上(メーカー側)サイドほどのタイト感、高揚感はなく、荷動きも胎動は感じながらも繁忙感が実感出来ないのはユーザーの人手不足がネックとなっているようだ。建築向けのH形鋼、コラムや建機向け厚板は荷動きが活発化しているので、薄板部門もタイムラグをおいて実需を伴った荷動きも徐々に増加し、ゴールデンウィーク明けにはかなりの荷動きが期待出来そう。賃上げも必要な情勢で、加工賃や運賃値上げ分を含めて価格改定を進めていきたい。今年は期末要因の安売りも無いと考える。
- ② 高炉メーカーの受注調整、中国の鋼材輸出の減少により、国内需給はタイトであるが、1月に入ってからの引合いは落ち着いている。期末の駆け込み需要に期待し、歯抜けの出ないように在庫を充実させたい。
- ③ 酸洗鋼板に関して、販売数量が落ちるも悲観視していない。年度末にかけて需要も活発になり、材料に逼迫感が出て来ると思う。価格転嫁も着実にいき、収益確保に努めたい。需要家の販売先への価格転嫁がなかなか進まないとの声が散見され、心配でもある。

中板

- ① メーカー供給減少による逼迫感から、年明け後に店売り価格の値上げを打ち出したものの、値上げの影響なのか引合いも期待するほどではなく、東京製鉄の1月売り出し値上げ発表後も変化なく低調な印象である。昨年11月頃に店売り価格として契約したコイルセンターが、母材コイルの入着遅れから年明け後、既契約価格でデリバリーするなどにより市況の盛り上がりを阻害していることも否めないのではないか。

厚板

- ① 1月は稼働日が少なく売上が伸びないが、前年の1月よりは上向きである。メーカー値上げがまだまだ切板は転嫁できていない。

形鋼

- ① 正月明けの店頭は久しぶりの活況を呈した。9月の需要期に入るもメーカー値上げに押されるばかりでノミナル化していたが、12月の中旬から荷動きを伴い始め、正月明けのピークを迎えた。しかし、1月も20日を過ぎると荷動きも元に戻ったようだ。価格も大事だが、荷動きはもっと大事である。2月、3月とメーカーの値上げに負けない荷動きを期待する。

正形鋼

- ① 1月の倉出しはプラスで、前年比でもプラス。足下の引合いは減っているが、インフラ向けの需要はあり、1～3月は例年通り。メーカー値上げを転嫁していく。

異形棒鋼

- ① 1月は稼働日が少なかったが在庫販売は堅調であった。市況も上昇した。直送販売は新規物件が無く低調で、先行きに不安を感じる。
- ② 動きは少しずつ良くなっている。仕入は5円/kg上がっている。15日過ぎからは単価を上げていく。

平鋼

- ① 荷動き状況は変わらず。徐々に値上げが浸透しているが、スピードが遅い。引き続きお願いしていく。
- ② 昨年からお願いをしているメーカー値上げ分の転嫁については、客先の理解を得られるようになってきている。店売りは低調。物件は以前より受注しているもののデリバリーが始まり、仕入れとの差が詰まって来ている。今後さらなる価格転嫁が必要。

軽量形鋼

- ① 雪の影響かは定かではないが、1月22日以降急激に悪くなってしまい、2月に入っても続いてしまっている。
- ② 人員不足による生産量減少の影響が大きい。一部の製品のみ好調であり、バラツキが大きい。

鋼管

- ① 雪の影響などあり荷動きはいま一つだが、価格優先を継続。
- ② 年明け好調なスタートであったが、中旬以降失速。価格は強含みだが、更なるメーカー値上げ転嫁は厳しい状況である。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は輸出が高水準を維持している。建設機械関連は中国向け輸出が好調で、大型機種も含め増産計画となっている。その他、工作機械、ロボット関連、半導体関連も好調に推移している。店売りの荷動きは堅調に推移しており、しばらく続くものと思われる。市況については、去年末から年初にかけて各メーカーの再値上げが発表され、3月以降、再販価格の再値上げを実施せざるを得ない状況である。市中在庫は、各メーカーの受注抑制や納期遅れが続いており、タイトな状況である。
- ② メーカーからの更なる値上げが来ている。今後の価格転嫁が課題になる。また、メーカーのロールスリップや枠制限の影響で歯抜けが目立つ。
- ③ 月間の出荷重量はやや減少（稼働日が少ないため）。日割りの出荷量はほぼ横這い。在庫量については前月増加分が残っている状況。

鋼材全般

- ① 1月は稼働日数が少なく厳しかった。更に2日間、雪の影響で配送も満足にできなかった。その後も物件遅れが出ており、予想以上の向い風になった。2月に向け値上げを実行したい。

その他

<スクラップ>

- ① 国内の各メーカーは増産が続いており、海外要因など含めても、スクラップ市況は多少の調整はあっても堅調に推移するのではないかと見られる。

<金属表面処理加工>

- ① 1月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットの扱い量も増加し、15%増(前月比)となる。2月は付加価値の高い加工が多く、高操業の予定。また、月を追うごとに車両の確保が難しくなっている。あわせて購入品(塗料・副資材)の値上げが続いており、2月受注分より加工費の値上げを実施。